

令和4年度 環境で地域を元気にする  
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

## 成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	✓

活動団体名：田主丸・未来創造会議

活動地域：福岡県 久留米市 田主丸町

活動におけるテーマ

『人々の心と暮らしを支える水縄（耳納）連  
山SDGs』

# 活動団体および活動地域の紹介

## 「水縄（耳納／みのう）連山SDGs」

専門機関  
による実証

農家との  
連携

### 田主丸らしい循環経済

全国生産一のみかん苗木  
カラタチ再利用に向けた挑戦

### 住民と育む 付加価値ある森林資源

かっぱの森 Jークレジット  
個人レベルの参加意識向上

### 生きがいをもたらす 暮らし／文化

暮らし／生業の根っこ  
神事・伝統行事の持続性

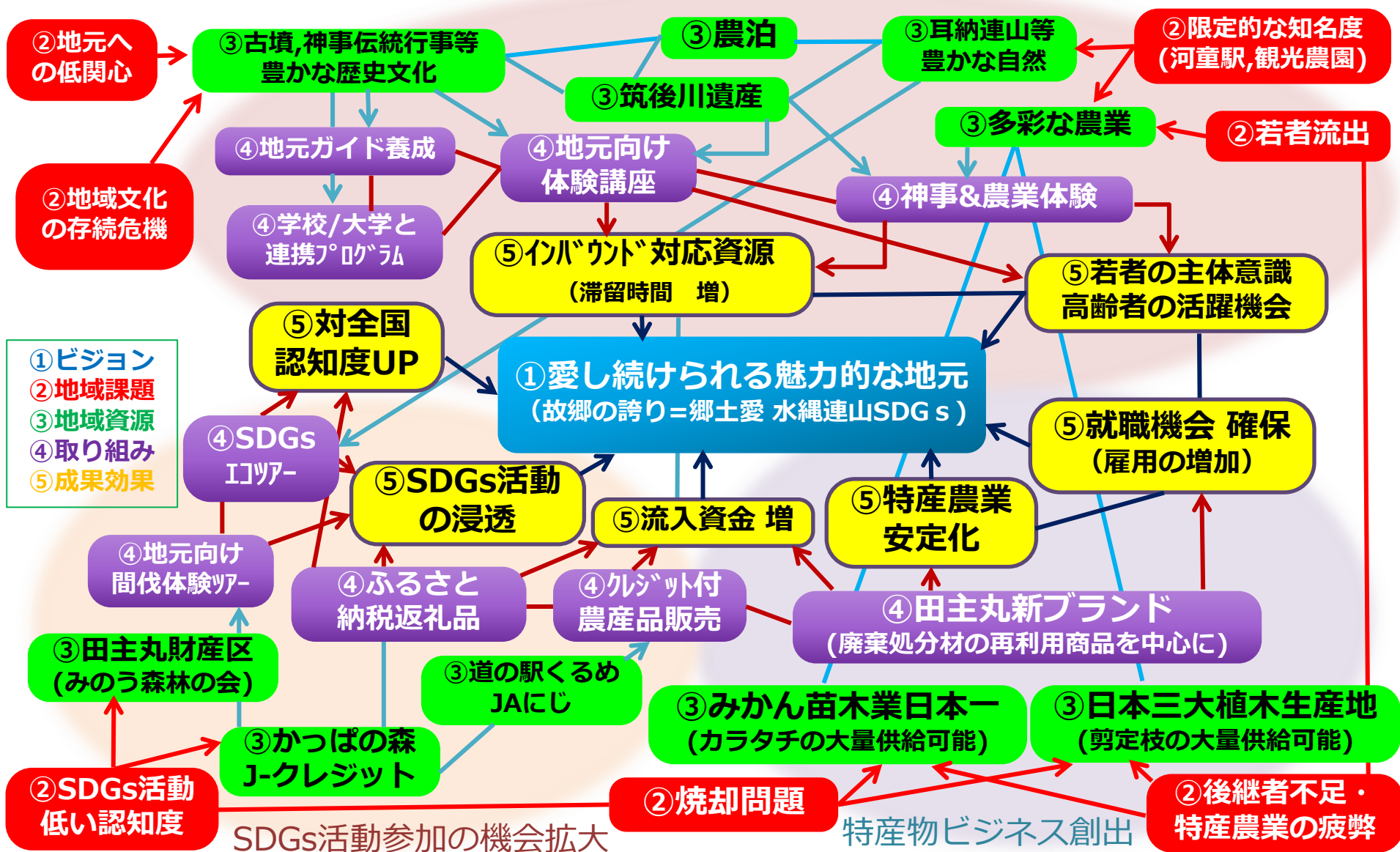
企業との  
連携

若い世代  
の巻き込み

田主丸のシンボル＝水縄(耳納) 連山に根差した  
多彩な農業とその暮らしに「愛着」・「誇り」を持つ

# 地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

地元定着の促進 関係交流人口の拡大



# 地域のありたい未来実現のための これまでの歩み



# 地域のありたい未来実現のための これまでの歩み



## 田主丸・未来創造会議の動き

(活動経緯)

R3年度 ①会議開催実績 4回 (プレ会議を含む)

(協議内容) 地域共生圏づくりPF事業概要の説明やステークホルダーの洗い出しや事業方針など

②ステークホルダーミーティングの開催 1回 (10月8日)

(団体名) 福岡県苗木研究会、浮羽工業高校、久留米耳納グリーンツーリズム協議会、県中小企業家同友会りょうちく支部、田主丸・未来創造会議委員、EPO九州、久留米市 など

③その他 田主丸地域にある7校区まちづくり振興会の広報紙への記事掲載

R4年度 ①会議開催実績 2回

(協議内容) 今年度の活動方針や次年度以降の活動方針など

②「田主丸未来創造フォーラム2022の開催」(10月28日)

(団体名) 株式会社アズマ、株式会社山都竹琉、公益財団法人地方経済研究所、にじ農業協同組合、久留米グリーンツーリズム協議会、ふるさと管理総合株式会社、ダイハツ工業株式会社、一般社団法人サステナブルコミュニティ共創機構、株式会社B2S、ナカムラ興業株式会社、きりかぶ工房、添田木材有限会社、久留米工業大学、添田町役場、田主丸町観光振興会、田主丸財産区、環境省、九州地方環境事務所、いであ株式会社、GECO、EPO九州、久留米市など

③その他 田主丸地域にある7校区まちづくり振興会会長会に出席し、事業概要等を説明



# 地域のありたい未来実現のための **これまでの歩み**



## ①伐採カラタチ利活用の動き

(活動経緯) R3年度 九州大学、一般社団法人緑の機能性研究所、企業の研究機関、久留米リサーチ・パーク バイオ事業部などと連携して、カラタチの成分分析を実施（6次産品化の模索）。

R4年度 ①久留米市田主丸総合支所産業振興課に設置された農業の担い手育成プロジェクトチーム（苗木PT）と連携して野焼きによらない処分や利活用についての検討を開始。

②ダイハツ工業(株)九州開発センターに協力を要請し、バイオ炭化に関する試験を実施。

(ステークホルダー) 福岡県苗木研究会（若手生産者団体）

(気付き) 成分分析の結果、抗菌作用や精油効果などがあることが判明したが、**①鋭い棘があるカラタチ（約360万本）を効率的に運搬・チップ化する手段を確立**すること、**②農薬を除去**すること、などの課題を解決すること。

(取組) 現在は野焼きにより処理しているカラタチを、**効率的に運搬・チップ化する機械の開発をステークホルダーと協力して開発**することで、**環境への負荷、農家の労力の省力化を目指す（ダイハツ工業(株)との連携も継続）**。

# 地域のありたい未来実現のための **これまでの歩み**



## ②J-クレジット普及など耳納連山の森林の価値向上の動き

(活動経緯) 令和3年度 ①J-クレジットの個人販売促進のため、久留米市ふるさと納税の返礼品に登録。

②久留米市環境広報YouTube（久留米市エコチャンネル）、校区広報紙、地元フリーペーパーでの住民広報の実施。

令和4年度 ①J-クレジットの販売拡大と地元企業と連携した森林保全活動（企業応援の森構想）などの推進。

②田主丸・未来創造フォーラム2022 エクスカーション参加者との意見交換会の開催。

(ステークホルダー) 田主丸地域の住民、田主丸財産区議会、浮羽森林組合

(気付き) 新型コロナウイルス感染症の影響で地元を含む住民啓発などを十分に進めることができなかった。

(取組) ①J-クレジットの販売を通じて地元企業と新たな連携が構築され、森林活用に向けた協議を開始しており、一層の連携を強化する。

②アフターコロナを見据え、地元を含む住民に向けた普及啓発活動を実施し、認知度の向上を目指す。

# 地域のありたい未来実現のための **これまでの歩み**



## ③農泊と連携した神事・伝統行事の保存活用の動き

(活動経緯) 令和3年度 神事・伝統行事に関する映像やホームページを作成するなど普及啓発ツールの開発。

令和4年度 ①久留米市文化財保存活用地域計画「筑後川遺産」への登録に向けた活動。

②久留米大学や農家民泊団体と連携し、観光資源化に向けた協議を実施。

## ◎令和4年10月28日 **田主丸・未来創造フォーラム2022 神事・伝統行事に関するエクスカージョンの開催**

(出席団体) ①九州地方で地域循環共生圏づくりPF事業を展開する2団体

②環境省本省、九州地方環境事務所、いであ株式会社、持続可能な社会をつくる元気ネット、

GEOC (地球環境パートナーシッププラザ)、EPO九州 (九州地方環境パートナーシップオフィス)

(参加者数) 19名

(気付き) 久留米大学の藤谷ゼミと**学生向けの見学ツアーを実施し、コンテンツやプログラムなどを検証**。また、その後、外部に向けた見学ツアーを九州地方中間共有会 (ブロック会議) 参加者に実施することで**外部の反応を確認できた**。

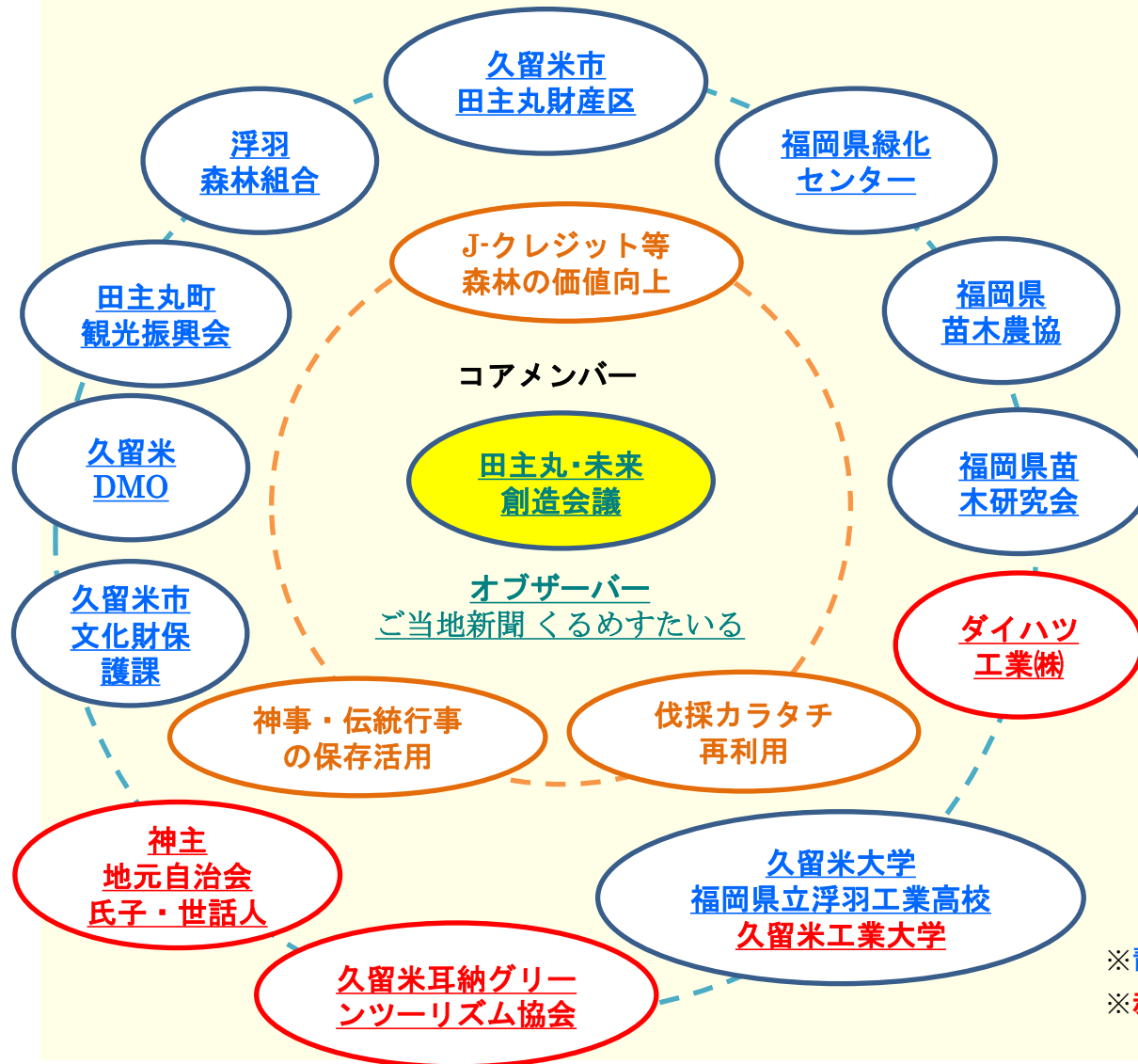
(取組) ①神事・伝統行事に関する大人数での見学会ツアーを実施したことで、**ツアー見学への対応など事業化に向け、計画のブラッシュアップを図る**。

②**「筑後川遺産」への登録後、地域住民・大学・行政機関を巻き込んだ事業化に向けて活動を進める**。



# 現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

【現状の地域プラットフォーム】



【地域プラットフォームの変化】

## 【想定していた課題・阻害要因】

- ・現在の取組と課題の掘り起しの両立  
→プロジェクト管理とニーズの把握
- ・地元から理解を得る成果の出し方  
→解決模索型、実現型テーマ解決には継続が必要
- ・運営体制の充実  
→受け身的なステークホルダーの意識改善



## 【今年度の活動を通じた変化】

- ・現在の取組と課題の掘り起しの両立
- ・地元から理解を得る成果の出し方
- ・運営体制の充実  
→取組や課題、地元や関係者の理解を得るために、伐採カラタチの利活用及び神事・伝統行事の保存活用に関して分科会(協議体)を設置し、協議をする体制を整備。

※青字は、令和3年度に関係構築したステークホルダー

※赤字は、令和4年度に関係構築したステークホルダー

# 取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

## 取組①「伐採カラタチの利活用」

### 【活動内容】

みかん苗木の接木の台木として2年間育成したカラタチの苗木を、速やかに処分するため野焼きを行っている現状から、今までになかった新たな活用方法を見つけることで、環境に配慮した苗木の生産を目指す。

### 【成果】

令和3年度に伐採したカラタチに関する成分分析（白癬菌、黄色ブドウ球菌、アクネ菌への増殖抑制効果）を行い、今年度は、棘があるカラタチを効率的に運搬、粉碎するという課題解決のため、生産者団体が作る研究会とともにプロジェクトチームを発足して検討を始めている。

### 【活動の様子（写真など）】



### 【課題】

伐採したカラタチを効率的に運搬、粉碎するためには、専用の機械を製作する必要があることから、国補助金の活用などを検討しつつ、バイオ炭など新たな利活用についても検証や検討を行う必要性。

## 取組②「J-クレジット普及など耳納連山の森林の価値向上」

### 【活動内容】

水縄（耳納）連山の豊かな森林資源を田主丸財産区や浮羽森林組合と連携しながら保全・管理して行き、伐採だけでなく、かっぱの森J-クレジットなど新たな経済的価値を生み出すことを目指す。

### 【成果】

令和3年度にかっぱの森J-クレジットを市のふるさと納税の返礼品に登録した。今年度は、引き続きかっぱの森J-クレジットの販売拡大を図るとともに、企業と連携した森林保全活動（応援の森構想）など新たな取組を進めている。

### 【活動の様子（写真など）】



### 【課題】

森林環境贈与税の活用やJ-クレジットに関する新たな森林管理制度への対応を行うとともに、アフターコロナを見据え、森林空間を活用した観光スポットの整備や企業・団体など多様な主体を巻き込んだ更なる経済価値を生み出す仕組みづくり。

## 取組③「農泊と連携した神事・伝統行事の保存活用」

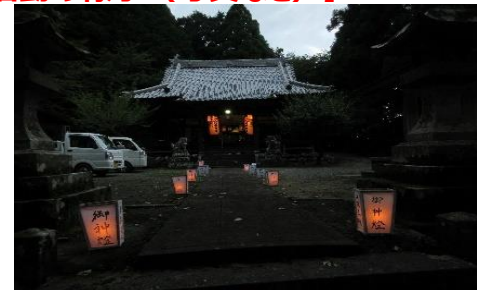
### 【活動内容】

田主丸には地域に多くの神社・仏閣があり、農業に関連した神事や伝統行事が受け継がれている。それらを農家民泊と連携して新たな観光資源としての活用することや後世に保全していくことを目指す。

### 【成果】

令和3年度に神事伝統に関する映像などを作成した。今年度は、久留米市文化財保存活用地域計画「筑後川遺産」への登録や久留米大学藤谷ゼミや農家民泊と連携して資源としての活用について検討を進めている。

### 【活動の様子（写真など）】



### 【課題】

久留米市文化財保存活用地域計画「筑後川遺産」への登録を目指し、神事や伝統行事の保全を進めるとともに、大学や農家民泊と連携して新たな観光資源としてのコンテンツ化＝事業化に向けた取組の強化。

# 活動における今後の展望

今年度末

- カラタチの利活用→チップ化する機械開発のメド、生産者との連携
- 森林の価値向上→J-クレジットの普及によるCO<sub>2</sub>の削減
- 神事伝統行事の保全→事業化へのメド、筑後川遺産への登録

来年度

- カラタチのバイオ炭化や森林価値の向上など引き続き活動を継続しつつ、農事や地域の根ざした神事・伝統行事の事業化を目指すことで田主丸の特長を生かす。



- ①事業化を目指す取組
- ②住民意識の向上を目指す取組

目指すべき姿

- 若年を含む全世代が、地元に愛着と誇りを持つ
- 豊かで多様な地域資源を活用した事業により、地域経済が循環する地域